

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成20年10月2日(2008.10.2)

【公表番号】特表2008-511846(P2008-511846A)

【公表日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【年通号数】公開・登録公報2008-015

【出願番号】特願2007-528740(P2007-528740)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月14日(2008.8.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 5】

キャリア層 1 0 は、1 0 μ m (マイクロメートル) から 5 0 μ m (マイクロメートル) の間の層の厚さ、望ましくは 1 9 μ m (マイクロメートル) から 2 3 μ m (マイクロメートル) の間の厚さの例えばポリエチレンテレフタレート (PET) 又は BO PP (二軸延伸ポリプロピレン) フィルム層からなる。剥離 (分離) 層 2 0 と保護ラッカー層 2 1 は、次に凹版スクリーンシリンダーによってキャリアフィルムに形成される。その際、剥離 (分離) 層 2 0 と保護ラッカー層 2 1 は、0 . 2 μ m (マイクロメートル) から 1 . 2 μ m (マイクロメートル) の間の厚さからなることが望ましい。それらの層を省略することもまた可能であり得る。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 6】

図 2 から見られるように、膜 2 3 1 と 2 3 n の堆積のためのコーティング方向は、平面的なレリーフ構造 2 6 の表面に対して垂直に向けられている。その方向は、図 2 において矢印 3 0 によって示される。その点において、コーティング装置は、物質がレリーフ構造 2 5 と 2 6 に一定の表面積密度で堆積されるような方法で設計されるので、結果としてその処理ステップ、レリーフ構造 2 5 と 2 6 上の膜 2 3 1 と 2 3 n の表面積密度は均等で一定となる。したがって、そのように、例えば、膜 2 3 1、2 3 n の伝導性を異ならせるため及び / 又は膜 2 3 1、2 3 n の形状を作成するためにどんな事前の対策も必要ではない。その点において、膜 2 3 1 と 2 3 n を構築することが、1 回の製造ステップにおいて精密な重なり合いの関係でもたらされ得ること、そして、レリーフ構造のミクロ構造化のため、例えば、回路を製造する時に必要とされる、特に高い分解能が達成されることは、特に有利である。

【手続補正 3】

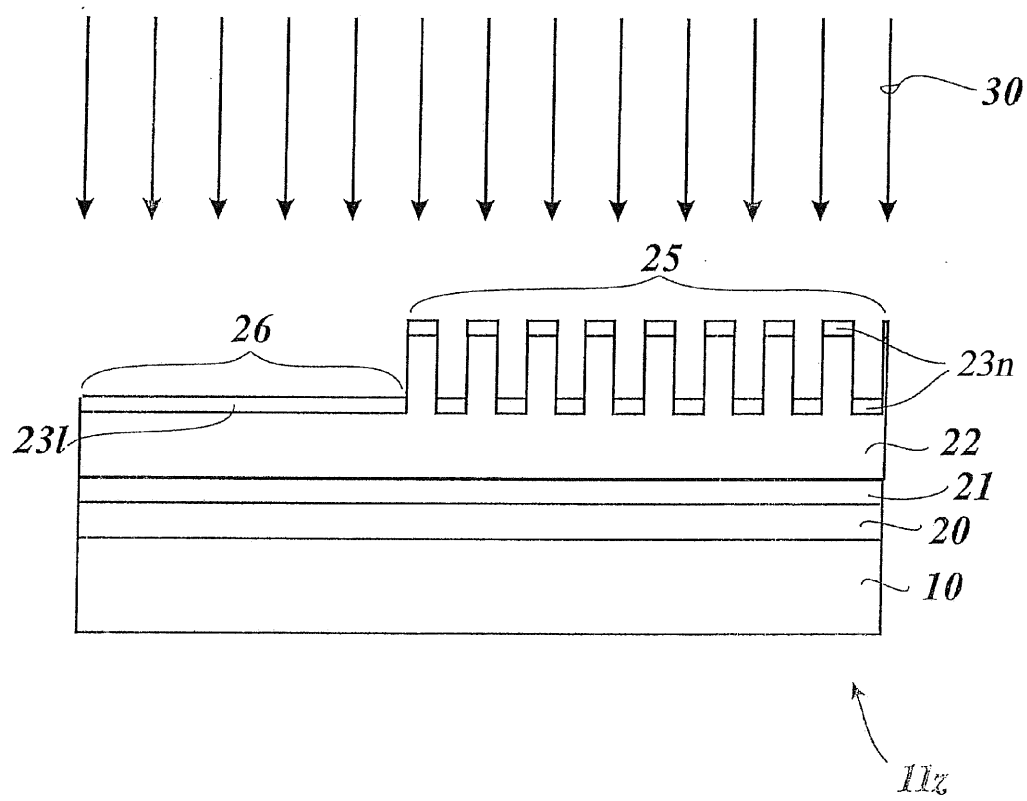
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2】



【手続補正 4】

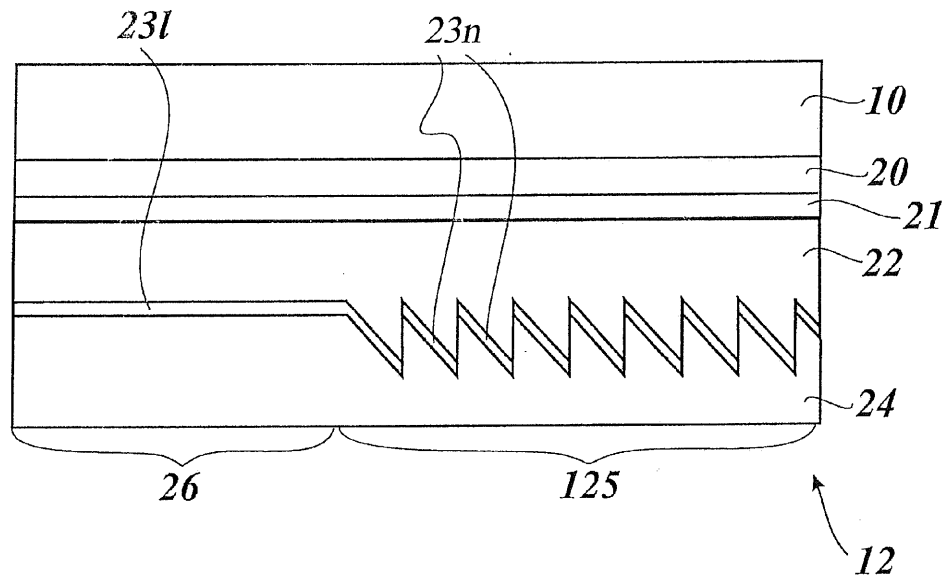
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】



【手続補正 5】

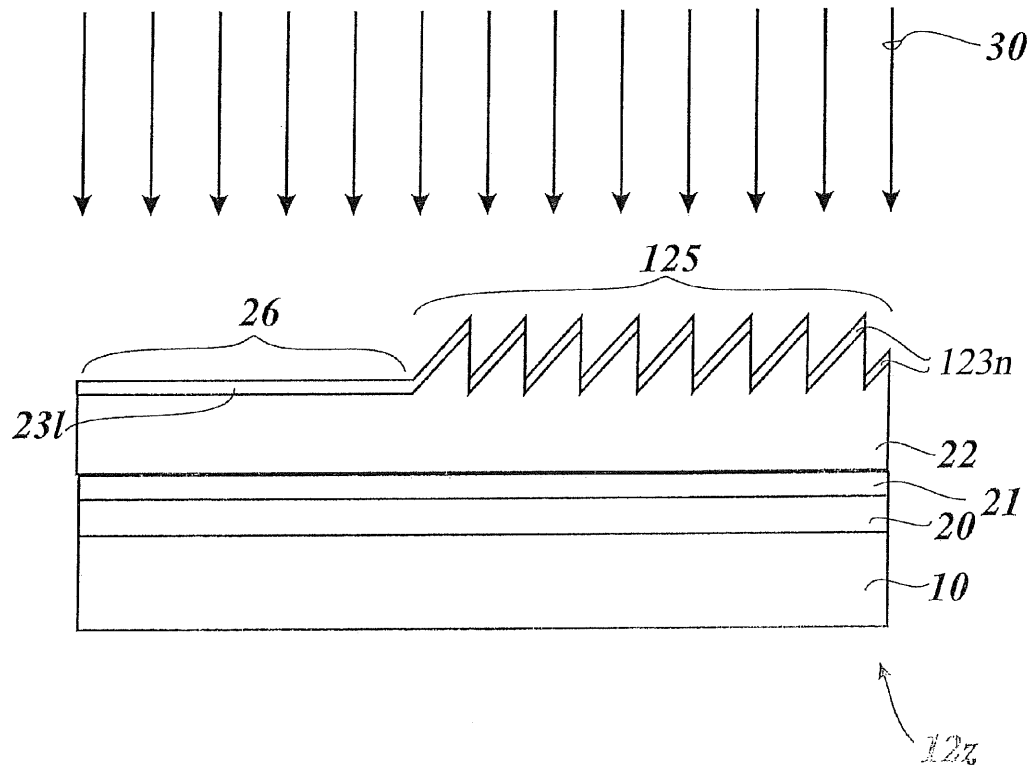
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 4 】



【 手続補正 6 】

【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 6

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 図 6 】

